



オトメのキモチを 編みこんで...

◀ 道具を手にする阿知波初美さん(二池町)。小さいものなら半日で編むという。



昨年のおまん和祭りのようす。▶ 後ろポケットにおまもりを下げている。



▲ 阿知波初美さん作

“撮っておき” の たかはま

【第18回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

おまん和祭りの無事を祈る「おまもり」

「昔はね、好きな人に告白するとき手作りの[おまもり]を渡したんだよ。おまん和祭りでケガしないようになって。」という往年の乙女たちの思い出話を聞いた。なんとも高浜らしい告白の流儀!

馬場の若者たちの後姿を改めて見ると、カラフルなりりあん糸で細かい模様を編みこんだおまもりを腰に下げている。おまもり作りを続ける1人、阿知波初美さんに製作のようすを見せてもらった。棒状の道具を使い、糸を交差させて筒のように編みあげていく。編み方は同じでも配色で印象が変わる。阿知波さんは「大山公園近くの生まれだから、おまん和祭りには馴染み深く育ちました。母に教えてもらいながら初めておまもりを作ったのは、もう70年も前の小学校2年生のころ。母が誰に習ったかは知りませんが、息子たちに編んでやりました。私も自分の夫、息子、孫に毎年作ってきましたよ。」と語ってくれた。この思い出から推測すると、装束におまもりをつける風習は、少なくとも80年の歴史はありそうだ。高浜の「おまん和祭り」は疾走する馬に飛びつく、勇壮ながら危険をとまなう祭りだ。大切な人の雄姿を楽しみにする気持ちと、無事を祈る気持ちが入りまざって、このような端正な模様がうかびあがるのかもしれない。「今やボケ防止だけだね。」茶目っ気たっぷりの阿知波さんの笑顔に、男性的な祭りに寄り添ってきた高浜の女性たちの長い年月を垣間見た気がした。

LELA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!

広報 **たかはま**

編集・発行 / 高浜市役所総合政策グループ
〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。

VEGETABLE OIL INK 広報たかはまは植物油インキを使用しています。